

# カンボジア通信

カンボジア教育支援基金 (KEAF-Japan) 会報

2019年3月

90号

〒162-8433 東京都新宿区市谷本村町10-5

JICA地球ひろば気付

カンボジア教育支援基金事務局

info@keaf-japan.com

http://keaf-japan.com



## 教育支援、学校と地域が協力

「開発独裁」のトリクル・ダウン  
校舎新設はなお NGO 頼み

3月前半に事務局の内田義博さんと2人で、カンボジア現地の支援学校や施設を一回りした。高校奨学生140人の後期分奨学金と教員養成所1年生の奨学生6人の1年分奨学金を届けながら、KEAF支援者の皆さんから寄せられた大型段ボール2箱の学用品や衣類などを配るのが目的だった。

フン・セン政権の「開発独裁」の下で激しく変化しているカンボジアにはいつも新しい発見がある。今回の訪問で見たのは、教育の底上げに学校と地域社会が協力するという新たな動きだった。先生たちの話を聞いて、カンボジアの農村にも「開発独裁」のトリクル・ダウン効果がおよんできたのかなと感じた(金子)。



## 国家試験で1位と4位占める

プロモルプロム高校に行くと、ポーン校長が待ちかねたように高校卒・大学入学資格のための2018年度国家統一試験で同高が87%の合格率をあげ、プレイヴェン州31高校のなかで第1位になったと報告してくれた。「KEAFの支援のおかげです」と校長はお礼を何回も繰り返した。

例年のトップは州都プレイヴェン市にあるプレアンダウンとコンポンリュウ両校の間の争いだった。プロモルプロムはKEAFが2007年に活動を開始したころ、合格率は50%前後を低迷していた。その後、年々成績を上げて、ついにトップに立つという快挙だ。

好成績を上げた学校がもう1校あった。プラティアート高校が4位になったのも特記できる。2016年に開設されたばかりで、2018年の最初の卒業生がこの好成績を上げたのだ。同高校はKEAFが長年支援してきたプラティアート中学の上ののっかる形で新設された。KEAFと

同中学との関係はKEAFの前身CEAFが1994年に校舎をプレゼントしたのに始まる。生徒の増加に伴い2005年に日本のNGOが新校舎を寄贈、今度の新高校校舎もやはり日本の別のNGOが建ててくれた。

中学の校長を長く務めたルーンさんは教育熱心で、様々な理科実験の器具から料理の本まで、ほかの学校にはないユニークな支援要望を突き付けられて困った。ルーンさんは新高校の校長になることが決まっていたのに就任直前に亡くなってしまった。急遽、副校長からくり上がった新校長に「この学校は教育熱心だから、さすが

ですね」とお祝いを言った。「国家試験は理科が難しいが、わが校では理科系より文化系が得意な生徒が多いのが幸いした」と冷静な評価をしていた

## 「PTA」をつくった

プロモルプロム高校では5年前に2階建ての新校舎が完成した

後、2年前には独立棟の図書館を作り校庭、校門、ブロック塀などの整備も着々と進めてきた。同校長は国の予算はつかないの、生徒の父兄や地元の商店主など地域社会に支援を求めた。今では地域社会と定期的に話し合いをしているという。カンボジア版PTAだ。

KEAFの教育支援と地域社会の後押しが相まって生徒の学習意欲が高まり、いい生徒が集まるようになった。これが「1位」の背景と校長先生は言った。

同じ話をチョーチャル中学の校長さんからも聞いた。同校は7年前に開校された。1棟の校舎だけ。校庭は汚水がたまる湿地と雑草におおわれていた。以来、支援を続けてきたが、道路事情が悪く、毎年訪問するわけにいかなかった。

今回、様変わりした学校を見た(上の写真)。新校舎がお目見えし、校庭は見事に整備され、生徒たちがサッカーを楽しみ、図書室の棚には本がいっぱい並んでいた。新校舎は日本のNGOのプレゼント、校庭の整備は地域の人たちが助けてくれたのだという。(次の頁に続く)

(1 頁からの続き)

## 地域に余裕が生まれた

2 人の校長さんと同じ話をした。この地域は 10 年ですっかり変わった。学校には電気も点くようになった。生徒の父や兄が出稼ぎに出て、コメづくりだけの自然経済がたちまち貨幣経済に転換した。新しいバイクが増え、生徒のバイク通学も目立つようになった。商店が増え、プノンペン銀行の支店やガソリンスタンドが店開きし、マイクロ・ファイナンスという名の高利貸が入ってきて、借金家庭が増えた。KEAF の奨学生も中途退学して工場に働き行くことがよく起こるようになった。

見かけはどうあれ生活がよくなったわけではない。先生たちはみんなそう言っているのではないか。



2 人の校長さんはこう考えていた。

それはその通りだ。しかし、教育条件が悪くて苦勞している学校を助けようという余裕が出てきたことも事実なのだ。学校をよくするためには、政府に頼れないところは地域に協力を求める。それができるようになった。(上の写真:小学生の弟、妹を乗せたバイクを運転する中学生。バイクの運転免許は 16 歳からだが・・・ソンポン小学校で)

## 先生になって母校に戻ってきた

タッコー高校で、若い男性が「私は KEAF の奨学生でした。今はここで英語の先生をしています」と迎えてくれた。同高校には 3 年ほど前に男性の英語の先生が帰っているの、KEAF 奨学生出身の先生は 2 人目だ。プラティアート高校にも女性のフランス語の先生が戻っている。

奨学生面接で先生になりたいという生徒のほとんどは自分の出身校に戻って後輩たちに教えたいと答える。地域の教育水準を高めるには、こういう先生が増えるのは望ましいことだ。



写真: 内田さん(左)と話し合うバンネット先生(右)。

## 教員不足で養成施設拡充

校舎もまだまだ足りないが、先生の数はさら不足している。小中学校の先生は各州に設置されている履修期間が 2 年の教員養成所で学ぶ。卒業すると出身地に戻るケースがほとんど。

地元教育の振興には即効性があるので、KEAF は 2013 年から教員養成所学生への奨学金プログラムに取り組んでいる。

2019 年度にはタッコー、コンポントウラバイ、プロモルプロムの 3 高校からそれぞれ 2 人、計 12 人の枠いっぱいになった。しかし教員養成所の入試が難しく、落第者が出て枠が埋まらなかったこともある。

政府は小中校の先生の定員を急いで増やす対策を進めているようで、州都に教員養成所の大きな新校舎と、学生及び教員のための宿舎の建設を始めていた。また、州都の養成所入試を通らなかった生徒を救済するための養成学校を首都プノンペンに開設した。



KEAF 奨学生 6 人うち 2 人はこの制度に拾われた。

写真: 教員養成奨学生の 2 人と面談(プレイヴェン市)

# ありがとうございました (2018年11月16日~2019年2月28日)

年会費、寄付金、奨学金を振り込みくださった方々に心からお礼申し上げます (敬称略させていただきます)

(東京)	(東京)	(東京)	(千葉)	(神奈川)	(大阪)
(東京)	(福島)	(神奈川)	(神奈川)	(神奈川)	・
(神奈川)	(東京)	(群馬)	(東京)	(東京)	(千
葉)	(神奈川)	(東京)	(東京)	(東京)	神奈
川)	・ (秋田)	(東京)	(東京)	(千葉)	(東京)
(東京)	(東京)	(東京)	(埼玉)	(兵庫)	(京都)
(埼玉)	(愛媛)	(兵庫)	(神奈川)	(東京)	(東京)
(埼玉)	(東京)	(東京)	(東京)	(東京)	(埼玉)
(埼玉)	(東京)	(銀行振込)			(ドイツ)

※お名前は個人情報なので伏せて掲載しています。 ※写真つき奨学生紹介の3~7頁は個人情報保護のため省略

## 《 2019年3月の訪問から 》》



### 国語を絵本で学ぶ

ソンポン小学校によく図書室ができた。上の写真は子供向けの絵本が並んだ書架。図書室担当の先生は、国語（クメール語）を覚えなかった生徒が絵本を大好きになって国語をよく勉強するようになったと喜んでいて、下はレゴ遊びにやってきた就学前の子ども。

### 「革命王？」の銅像が校庭に

カンボジアの16世紀の歴史に一時王権を握ったスデク・カンという人物が登場する。歴史家は単なる王権篡奪者とみるが、フン・セン首相が最近カン王を民主主義革命家と礼賛し、自分をカン王の生まれ代わりに見立てて、当時の都の跡地に寺院を建立したり、銅像を建てたりしている。フン・セン首相は恐怖政治で悪名高いポル・ポト率いるクメール・ルージュだったが、造反して同政権を追い出し、権力を握った自分のこの経歴を正当化するためにカン王を持ち上げているようだ。

こんな話を『カンボジア通信』86号（2018年3月）で紹介した。そのスデク・カン王の大きな銅像がプラティアート高校・中学の校庭にそびえ立っているのを見た。フン・セン支持派の金持ちがせっせと銅像をあちこちに建てていると伝えられているので、その一つと思われる。